

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102646		
法人名	社会福祉法人宝生会		
事業所名	グループホームカトレア		
所在地	栃木県宇都宮市星が丘1-1-28 (電話) 028-650-7345		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年7月16日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人 15 人	常勤10人(うち兼務10人), 非常勤2人, 常勤換算5人 常勤11人(うち兼務9人), 非常勤4人, 常勤換算6.9人	

(2) 建物概要

建物構造	RC鉄筋コンクリート 2階建ての1~2階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	・光熱水費—20,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	《入所時預かり金》 有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	修繕費として退去時に精算	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成20年6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2		4 名	
要介護3	6 名	要介護4		3 名	
要介護5	名	要支援2		名	
年齢	平均 85.9 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	沼尾病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人は市内で特別養護老人ホーム等を運営する社会福祉法人であり、関係法人として病院・介護老人保健施設等を運営している医療法人があり、それら施設・機関との連携も図っている。当ホームは市内中心部に近い住宅地に位置しており、買い物、通院などに便利な場所に位置している。幹線道路からやや奥まっており、ホーム前の道路は一方通行であることもあり、車の往来等も少なく閑静な環境である。立地条件を活かして、ホームの中だけで生活を完結するのではなく、街中での生活を大切にしている。関係法人の病院スタッフと協力し、職員が見守りながら、徐々に一人で外出できるように支援をしており、訪問日にも実際に一人で出掛ける入居者の姿が見られた。居室の鍵を自身で管理する入居者もいる。入居者の力を活かしつつ、地域とのつながりを支えていこうとしているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は外部評価を自己点検の機会と捉え、外部評価の結果を踏まえて、事情により発行には至っていないが広報誌の発行準備をしたりしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については前回までは職員に配布して実施したが、今回は本基準になって初めての自己評価ということもあって管理者のみで実施した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員に参加してもらいホームの状況を報告し、地域の情報を聞いたりしている。地域包括支援センターの会議と重複する参加者の負担を考慮して、ホームと関連法人の地域包括支援センターと会場を交代しながら実施し、ホームで開催する時には中の様子を見てもらうようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が訪問した際に報告したり、入居者の状態に変化があった時などには電話で連絡をしたりしている。預かり金は、個々人の通帳で管理し、家族に確認してもらっている。昨年から、玄関先にコルクボードを置き、職員の一言をそえた名前入りの写真を掲示している。重要事項説明書にホームの窓口を明記し、ご意見箱を設置している。ご意見箱に意見や苦情が寄せられたことはない。家族が訪問した時などには、意見などを遠慮なく言ってもらおうよう働きかけている。不満や要望が寄せられた時はミーティングや職員間の連絡帳で対応方法を共有し、改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	社会とのつながりを大切にしており、散歩や買い物、通院等なるべく外出するように努め、地域の方々と挨拶を交わしたり、立ち話をしたりしている。自治会・老人会には加入していないが、地域の祭りや防災訓練などにも参加している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	立地特性を踏まえて周辺の社会資源を活用しながら一般的な生活様式を可能な限り保持し、心身の自立を支援することを理念としている。その他、大切にすべきことを「美・優・説・楽・早・安」といったキーワードにして玄関に掲出している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕のミーティング、2か月に一度の職員会議で入居者の状況等を職員間で共有しながら、ホームの中だけで生活が完結しないようになるべく外出するよう、また入居者ができることはなるべくしてもらうようにしながら理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	社会とのつながりを大切にしており、散歩や買い物、通院等なるべく外出するように努め、地域の方々と挨拶を交わしたり、立ち話をしたりしている。自治会・老人会には加入していないが、地域の祭りや防災訓練などにも参加している。	○	支援方法を工夫しながら、徐々に一人で外出できるように支え、実際に一人で出かける入居者の姿が見られた。入居者の地域での暮らしを支えるために、今後も地域特性を踏まえつつ、必要な働きかけを続けていくことを期待したい。また地域に向けて広報誌を配布することも検討しているので、ホームを更によく知ってもらう機会として実現に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価を自己点検の機会と捉え、外部評価の結果を踏まえて、事情により発行には至っていないが広報誌の発行準備をしたりしている。自己評価については前回までは職員に配布して実施したが、今回は本基準になって初めての自己評価ということもあって管理者のみで実施した。	○	管理者は、次回以降、自己評価を実施するには全職員で取り組みたいと考えている。自己点検の機会を更に充実させる意味でも、また職員間でホームの現状・目標を共有する意味でも自己評価・外部評価の取り組み方を充実させていくことに期待したい。

グループホームカトレア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員に参加してもらいホームの状況を報告し、地域の情報を聞いたりしている。地域包括支援センターの会議と重複する参加者の負担を考慮して、ホームと関連法人の地域包括支援センターと会場を交代しながら実施し、ホームで開催する時には中の様子を見てもらうようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が窓口となって、市への報告・相談等をしている。ホームの運営については、ホームが困っている細かなところでも市に相談、確認しながら進めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問した際に報告したり、入居者の状態に変化があった時などには電話で連絡をしたりしている。預かり金は、個々人の通帳で管理し、家族に確認してもらっている。昨年、玄関先にコルクボードを置き、職員の一言をそえた名前入りの写真を掲示している。	○	広報誌の発行準備は進めているが、職員の交代等の影響もあり発行できていない。家族等への定期的な報告の多様化という意味でも、職員体制を見ながら実現につなげていくことに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの窓口を明記し、ご意見箱を設置している。ご意見箱に意見や苦情が寄せられたことはない。家族が訪問した時には、意見などを遠慮なく言ってもらえるよう働きかけている。不満や要望が寄せられた時はミーティングや職員間の連絡帳で対応方法を共有し、改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は基本的に行わないようにしているが、離職が多くなっている。職員の交代があったときには、周りの職員がカバーして入居者に影響がでないように努めている。管理者は、運営者とも相談しながら、待遇面の改善など離職を防ぐための対策を具体的に講じている。	○	管理者は、職員の確保に苦心し、具体的な改善も講じている。市にも現状を伝え、対策をお願いしたりもしている。広報誌の発行なども準備をしながら職員交代の影響で難しくなっている。職員の確保・離職防止に今後も努力しながら、定着化が図られていくことを期待したい。

グループホームカトレア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内があった時は管理者が参加者を判断して、順番・交替で参加させている。研修終了後は資料を回覧して知識の共有に努めている。「勉強会」という形はとっていないが、連絡帳に「認知症について」といったレポートが添付しており、職員間の知識・意識の共有に努めている様子がうかがえる。2か月に1回程度開催する職員会議は、場合によっては管理者が席を外したりと職員の自主性に配慮した運営にも努めている。法人として人事考課・面談の仕組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入し、管理者は協会の役員も担い、他ホームとの連携を図っている。他ホームの見学にも何件か出掛けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みがあった時は、面談で本人・家族の不安解消に努めている。またホームに来てもらい入居者・職員との交流の場面をつくり、事前にホームの雰囲気を見てもらうなど徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることに配慮しながら、掃除・洗濯物たたみ・布団干し・食事の配膳・下膳等と一緒にやっている。主体的な行動が難しくなっても、なるべくできることは本人にしてもらうように働きかけている。		

グループホームカトレア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その時々本人の意思表示を大切に思いや意向の把握に努めている。現状調査票、「カトレア式」包括的自立支援プログラムケアチェック表で本人の情報を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞き、また朝夕のミーティングの際にミニカンファレンスの時間をもって職員の意見も参考にしながら介護計画の作成をしている。個人記録に食事状況や排泄状況なども記入するようにして記録を一元化し、またケアの仕方を変える時などは連絡帳で職員に周知している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	目標を6か月などと定めて定期的な見直しをし、本人の状態に変化があった時などは随時見直しをしている。担当職員を決めて、大きな変化があった時などはモニタリングを行い課題の整理を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々本人の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の中だけで生活を完結するのではなく、関係法人との連携も図りながら入居者が一人で自由に外出できるような柔軟な支援に努めている。また少人数での外出や買い物などの機会も取り入れている。		

グループホームカトレア


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に主治医について相談している。一律に協力医療機関に変えてもらうということはないが、協力病院に主治医を変える方が多い。協力医療機関での受診には職員が付き添っている。その他の医療機関を受診する時には情報提供書を作成するなど適切な医療が受けられるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では終末期の対応は困難であるとしており、契約時に食事の摂取、立位保持が難しくなったときには入居の継続が困難になることを説明している。ホームから他所へ住まいを移す時には、家族及び転居先の施設職員と話し合うなどの支援をし、本人・家族がなるべく安心できるように配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉づかいは「です・ます」調を基本とし、排泄の失敗などがあった時には慌てず・急がず、プライバシーやプライドに配慮して対応するようにしている。個人記録は事務室で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に設けていない。安全に配慮しつつ、段階的な支援をしたことによって一人で自由に散歩や買い物に出掛ける入居者もいる。訪問時にも一人で、あるいは職員と一緒に少人数で外出する入居者の姿が見られた。		

グループホームカトレア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできることに配慮しながら、料理の下ごしらえや配膳・下膳を一緒に行っている。献立は担当者が入居者の好みを聞きながら1週間程度を目安につくっている。食材のほとんどは業者購入であるが、茶菓子などは入居者と買い物に行き選んでもらったりしている。職員は弁当などを持ってきて、入居者と一緒に食べている。	○	調理の際に味見はされているが、同じものを食べる中で味をみたり、食事から会話を広げていくという意味でも、まずは一人でも入居者と同じものを食べることを検討してみることに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回以上は入浴してもらうように配慮しており、毎日入浴する方、夜に入浴をする方もいる。入浴の順番等を配慮したりもしている。ゆず湯などにしたりもしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食事の準備・片付け、洗濯物たたみ、花壇の手入れ、散歩、買い物、おはじきなど、入居者のできることや気持ちに配慮しながら支援している。誕生日のお祝いはそれぞれの入居者の誕生日ごとに行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、近所への買い物など、なるべく外に出る機会をつくっている。一人で外出する方もいる。移動が困難でも玄関先のベンチで外気に触れられるよう配慮している。行事的な外出、外食の機会もつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	市の指導により窓は全開しないようになっているが、玄関には鍵をかけていない。玄関にセンサーも取り付けられているが、職員の見守りで鍵をかけないケアに取り組んでいる。段階的な支援の結果、一人で自由に外出している入居者もいる。		

グループホームカトレア

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は実施できなかったが、年2回以上の避難訓練を実施することになっており、夜間を想定しての訓練を実施したこともある。地域で実施している避難訓練には参加しているが、地域の方々の具体的な協力関係づくりはこれからの予定である。	○	いざという時のために訓練の定期的実施をすることを期待したい。また有事の際に地域に対してホームができることも検討しているので、運営推進会議の場なども活かしながら地域の方々の協力関係づくりに取り組んでいくことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は1週間程度ずつ担当職員がつくっている。担当職員は書籍や知り合いの栄養士のアドバイスをもらったりして栄養バランスやカロリーに気をつけている。食事摂取量、また必要に応じて水分の摂取量を記録し適切な摂取ができるように支援している。半年に1回は体重を計測している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに花を飾ったり、カレンダーや入居者の作品を飾ったりしている。共用部分は広く、ダイニング部分のテーブル・イスのほかに、ソファを置いたり廊下にベンチを置いたりしている。音、光なども適切に配慮され、換気扇や窓の開け閉めで空気を入れ替えており、室内に空気よどみ等はなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込む量に多寡はあるが、タンス、テレビ、テーブル、いすなどが持ち込まれており入居者それぞれの居室づくりがなされていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。